

低温時における深水管理の徹底について

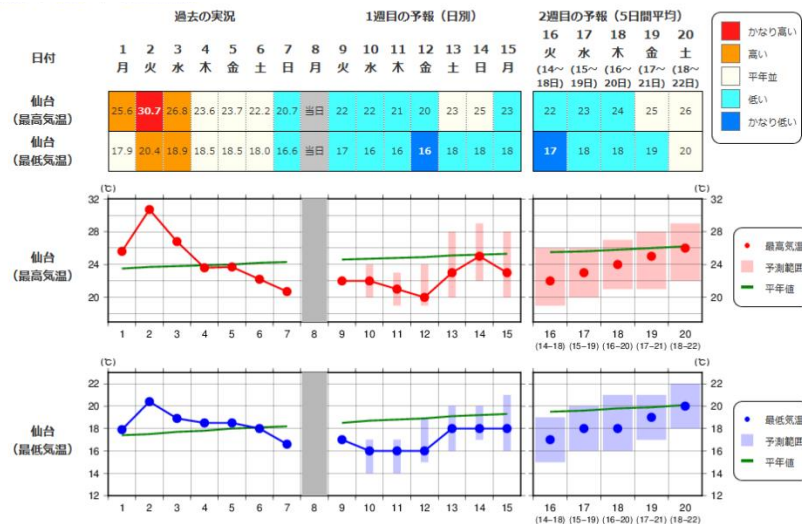
宮城県米づくり推進本部
令和元年7月8日

**今後2週間程度、気温が低く日照時間も少ない状態が続くと見込まれています。
深水管理を実施して、幼穂を低温から保護しましょう。**

- 「低温に関する宮城県気象情報 第1号」が7月8日11時に仙台管区气象台から発表されました。「宮城県では、千島の東に中心を持つ高気圧からの冷たく湿った空気の影響により、12日頃にかけて気温の低い状態が続くでしょう。日平均気温が平年より4度前後低く、5月下旬並みとなる所もある見込みです。」
また、「日照不足と低温に関する宮城県気象情報 第1号」が同日15時に発表されました。「宮城県では、6月28日頃から日照時間の少ない状態が続いています。この状態は、今後2週間程度は続くでしょう。また、今後2週間程度は平年に比べ気温の低い状態が続く見込みです。」
- 本県の水稻（平坦部の中生品種）は、概ね幼穂形成始期に達しているの見込まれ（生育調査ほの幼穂形成始期の平年値は7月8日）、地帯区分や田植時期によっては、より生育が進んでいるところもあります。
- 日平均気温20℃以下が長期間続く場合や最低気温が17℃以下となる場合は障害不稔が発生する危険性が高くなります。深水管理を実施して、幼穂を低温から保護しましょう。

1 天気予報について

気象庁ホームページから、最新の週間天気予報、2週間気温予報、東北地方1か月予報を確認してください。以下は、7月8日14時30分現在の2週間気温予報（仙台）です。



2 低温時の適切な水管理（深水管理）について

- 幼穂形成始期（出穂25日前頃）から減数分裂期（出穂15～10日前）までの低温時（平均気温20℃以下又は最低気温17℃以下）には、水深10cm前後に湛水して幼穂を保温し、障害不稔の発生を防止します。
- 幼穂形成始期（出穂25日前頃）からの深水管理（水深10cm以上）は、その後の減数分裂期（最も低温に弱い時期：出穂15～10日前）の深水管理（水深17～20cm程度）と組み合わせて実施することで障害不稔防止に高い効果があります。
- 最も低温に弱い減数分裂期（幼穂長3～12cm）に低温から幼穂を効果的に保護するには、17～20cmの水深が必要です。なお、この水深が確保できない場合でも、無風状態であれば水面上の気温は1～2℃高くなり、被害軽減の効果が期待できますので、可能な限り深水にして被害の回避に努めてください。